

○鑑定方法

平成十三年三月十四日

最終改正 令和四年二月二十八日 農林水産省告示第四百八十一号

農林水産省告示第三百三十三号

農産物検査法施行規則（昭和二十六年農林省令第三十二号）第六条第二項の規定に基づき、農林水産大臣が定める鑑定方法を次のように定め、平成十三年四月一日から施行する。

一 鑑定は、農産物規格規程（平成十三年二月二十八日農林水産省告示第二百四十四号。以下「規程」という。）において定める農産物の種類ごとの品位について、視覚、触覚、臭覚及び聴覚を用いて行うものとする。ただし、視覚、触覚、臭覚及び聴覚を用いて行う鑑定のみによっては、適正な品位等検査に係る品位の検査を行うことができないと認められる場合には、標準計測方法（平成十三年三月十四日農林水産省告示第三百三十二号）により測定した結果を用いて鑑定を行うものとする。

二 国内産玄米（水稻うるち玄米に限る。）の死米（規程第一の二の定義において定める死米をいう。以下同じ。）及び着色粒（規程第一の二の定義において定める着色粒をいう。以下同じ。）の混入割合の鑑定は、前号の規定にかかわらず、標準計測方法に基づき測定した混入割合を用いて行うことができる。ただし、死米について当該混入割合が農林水産省農産局長が別に定める値を超えた場合及び着色粒について当該混入割合が〇・一％、〇・三％又は〇・七％であった場合には、それぞれ視覚、触覚、臭覚及び聴覚を用いて鑑定を行うものとする。

三 規程第一の二の(三)のハの(ロ)に掲げる規格項目のうち、aからgまでについては、前二号の規定にかかわらず、標準計測方法に基づき測定した結果を用いて鑑定を行うものとする。

四 視覚、触覚、臭覚及び聴覚を用いて行う鑑定は、日光の直射及び物体の反射光線の影響を受けない条件の下で行うものとする。